

庭み 庭み 庭み 通信

（尚）庭園設計事務所
〒193-0823 東京都
八王子市横川町 1096-3
Tel:042-622-8840

VOL.10

作庭家の 思考の

柔軟性が 光る庭



今回は、一つの庭づくりの特集です。場所は玉川上水の取水場で有名な、羽村市です。

昔は、多摩川の河岸段丘であろうと想像される様に庭づくりに着手し、機械で土を掘ると出るは出るは、敷地の至る処から、大小さまざまな玉石がゾロゾロ…。この玉石を処分するにも、その量の多さにビック



ウッドデッキのある、いわゆるガーデニング風の庭も・・・♪

リ！そこで急遽、庭の設計士の取った行動は、当初の作庭プランを大幅変更！柔軟にも、この面倒な玉石を使って豪快な「枯れ流れ」の庭へと、この辺りが作庭家の面目躍如といったところ。場所がら、多摩川を強くイメージ、大きな三尊石の岩を配し、源流域から河口へと続く大河を見事に表現！ガーデニングだけの作庭家と異なり、日本庭園も手掛けた者ならではの、自慢話だけではなく、一緒に庭づくりに参加出来る者だけが感ずる、多いなる喜びでありました。



“つるもの”特集であるかの様に、今回も“つるもの”の話です。定家葛（アイカカズラ）、ご存知、定家は百人一首の選者である、あの藤原定家でありませう。この人、女性への執心ぶりが有名で、特に有名にさせたのが、式子内親王への想いで、この内親王は後白河天皇の第三皇女で、いと「やんごとなき」女性なのであります。

謡曲「定家」によると、式子内親王が死して後も、その墓へこの“つる”が執つてく絡みつくので、困り果てた内親王が、旅の僧侶に助けを求めるといふ内容が大筋です。どうりで、この“つる”切っても切っても壁易する位、良く伸びる“つるもの”である訳だ…。



スクリュー状の白い花でキョウチクトウと同じ仲間

天声樹語

庭Case 美しい郷がオープンしておかげ様で一年が経ちました。借景の山々と同化して、美しい郷の緑がより一層引き立っています。ぜひ足をお運び下さい。



地球温暖化が叫ばれてから久しい。その為の緑化問題も同様。土の少ない屋上緑化など、温暖化防止にどれ程の効果があるのだろうか？ 近頃、相続上の問題から、屋敷林が失われていくの、報をよく耳にする。また現実に、親から引き継ぐのだが維持が大変だから、木を切ってくれとの依頼も多くなった。木を相手にする側からすれば悲しい話である。これは私見であるが、今の相続問題は何かならないものか。戦後、誰にでもチャンスをと考えられた法で、それなりの意味もあった。でも七十年過ぎ、深刻な緑化問題を考えると、この課税方法をいつまで続けることが最良の法なのかと思ひ悩むのは私ばかりではあるまい…。